

# 歴史文化館ニュース 第5号

2011. 5. 9

## 栢山歴史文化館の役割は・・・ 自校（史）教育と地域貢献

栢山歴史文化館 館長 栢山美恵子

最近教育の場において自校史を振り返ることが重要視されていますが、自校史を学ぶ意義は主として次の2つに在ると思われます。ひとつは、自校の教育とは何であるかを自己確認し、その意義を自身のものとすることによって自己の確立につなげるという点です。もうひとつは、自校の沿革を辿ることを通してその存在意義を確かめ、その意義を継承し世間に広げていくという点です。

栢山歴史文化館もこうした観点を含んで設立されました。したがって当館の役割の第一の柱は、関係の皆さんが自校を知る場所と資料を提供して自校（史）教育を推進すると共に学園の存在意義を世間に広げていくことです。

第2の柱は、当館所蔵の資料の研究とその公開を通して、栢山歴史文化館を栢山の関係者のみならず広く社会に役立つ存在にしていこうということです。

今年度もこの2つの柱に沿って様々な活動を予定しています。自校（史）教育としては、引き続き「歴史文化館ニュース」を発行するほか、当館を紹介するパワーポイント、また新たに「栢山歴史検定」を用意しています。また自校（史）教育に関わる資料として「栢山女学園の歴史をたどることば集—創立から現代まで」を5月に発刊します。文化展示室では、現在展示中の生活科学部デザイン学科作品展に続いて、「人間になろう」作品展、栢山小学校作品展を順次開催していきます。

社会に役立つ活動としては、昨年4月に立ち上げた栢山歴史文化館のホームページの充実を図り、よりいっそう一般の人々にも役立つ資料を提供していきます。現在、展示資料の紹介のほか「新着ニュース」、「ニュースレター」の中で随時新しく内容を更新していますが、ホームページ上に新たに設けた「資料室」には、世界の歴史の中に位置づけた栢山の歴史年表とともに、上記の「ことば集」の一部を紹介しています。今後この「資料室」を中心に様々な歴史資料の公開をしていきます。

今年度から栢山歴史文化館に新たに「デジタルアーカイブ研究会」が発足しました。この研究会が中心となって「資料室」を充実し、広く社会にも貢献できる発信をしていく予定です。

このように今年度も栢山歴史文化館は、2つの柱—自校（史）教育と地域貢献—の活動を、徐々にその枠を広げながら展開していきます。

\*\*\*\*\*



### 「栢山女学園の歴史をたどる ことば集—創立から現代まで」を発刊

上記の資料集を栢山歴史文化館から発刊しました。これは、創設者と、創設者の没後現代までの歴代の理事長・学園長の主なことばを中心に、時代ごとに区分して掲載した資料集です。学園のあゆみと日本・世界の歴史を対比しつつ、実際のことばを通してその時代の生の姿を感じ取りながら、自校史を振り返ることができます。「ことば」は主として学園の年史「糸菊」、学校誌「すぎやま」、「学園報」その他の学園関係発行誌などから掲載しました。

この冊子が、時代の流れの中で学園の教育がどのように変遷してきたか、変わったことと変わらないこと、栢山の教育とは何か、未来に生かしたいことは何なのかなど、栢山の歴史と教育理念を考える資料のひとつとして、今後生かされていくことを期待します。

各学校の図書館、同窓会館、歴史文化館、栢山人間学研究センター、各学校・各学部の職員室・事務室などに置いてありますのでご利用ください。また教職員の皆さんには自校（史）教育の資料として各自にお届けしました。



## 【歴史展示室トピックス】

### <「糸菊」とその歴史>

「糸菊」は学園が発行する各学校・付属機関・同窓会の1年の活動内容が詳細に掲載された年刊誌として馴染み深いものとなっていますが、「糸菊」が発行される前にはその前身にあたる「糸櫻」という刊行誌がありました。

「糸櫻」は明治39年に創刊され、和風会（今でいう生徒会や同窓会の母体）が発行していた月刊誌で、名古屋裁縫女学校内の「しだれ桜」と裁縫で欠かせない「糸」にちなんで命名されました。当時の内容は創設者・正式氏をはじめ教諭による論文や生徒達の作文や俳句が掲載され、文芸色の強いものでした。大正2年に大正天皇と皇太后が名古屋に宿泊された際、本学の生徒が手芸の糸菊の造花を献上した事をきっかけに「糸菊」と改名しました。



「糸菊」は昭和19年から昭和23年の4年間は戦争のため休刊していますが、昭和24年の大学開学を機に復刊し、大学開学の特集が大々的に組まれました。後の昭和51年（1976年）の「糸菊（創立70周年記念）」で、「糸菊詩に思う」の中で須田昌平教諭がこの復刊第一号について「表紙は栄養失調のような蝶々が3匹で、中身も28ページしかなく、わら半紙のような紙質であり、お粗末この上ない姿の糸菊である。しかし、考えてみるとこれは無残に踏みにじられた若草が地下に細々と命をつなぎ、世の光に再び新芽を吹き出したように感じられる」と困難を伴って復刊した当時の学園の苦労を振り返っています。

現在、椋山歴史文化館では「糸櫻」創刊号から「糸菊」2011年版までの全106冊が整然と並んでおり、表紙絵は生徒の作品によるものが多く、表紙からも時代の移り変わりを見て取れます。「糸菊（糸櫻）」は創設以来、椋山女学園の歴史を物語る存在であり、椋山女学園に関わるすべての人々と共に現在もその歴史を刻み続けています。

\*\*\*\*\*

## 【正式記念室トピックス】

### <2度の藍綬褒章と瑞宝章>

褒章とは、明治14年（1881）制定された褒章条例によって公衆社会の利益、福祉や公共、文化の事業で事績著明な人物に天皇陛下から授与される日本の栄典のひとつで、貢献した分野によって紅綬、緑綬、黄綬、紫綬、藍綬、紺綬の6種類の褒章に分けられ、そのうち正式氏が授与された藍綬褒章（らんじゅほうしょう）とは「教育、医療、社会福祉、産業振興等の分野で公衆の利益を興した者又は保護司、民生・児童委員、調停委員等の公同の事務に尽力した方」（内閣府「勲章・褒章制度の概要」より）を讃えるものです。

椋山正式氏は昭和15年（1940）と30年（1955）の2回にわたり受章し、これは全国でも異例な出来事であり、大変な栄誉に浴しました。歴史文化館入り口にある椋山正式氏の胸像は二度目の受章の記念として建立されました。

また、昭和39年（1964）の椋山正式逝去の折には叙位叙勲「従五位勲三等瑞宝章」が授与され、学園葬において霊前に供えられました。その賞状は正式記念室に並べられています。



藍綬褒章（昭和30年）



従五位勲三等瑞宝章（昭和39年）

\*\*\*\*\*

### <「デジタルアーカイブ研究会」の立ち上げ>

椋山歴史文化館では、平成23年度から新たに「デジタルアーカイブ研究会」を立ち上げました。

設置の目的は椋山女学園における歴史資料の収集・保存・展示のためにデジタルアーカイブの手法を重点に採用することを通じて、物理的な収集場所及び展示場所の限界を克服し、ウェブを通じた学園の広報活動に資するとともに、あわせて、学園各校における自校教育の教育素材を提供するために、最適化されたデータアーカイブを開発するというものです。

研究員としては、9名（杉藤重信、飯塚恵理人、阿部順子、小倉祥子、福永智子、三木邦弘、宮下十有、八木茂徳、遠藤守の各氏）が委嘱され、今後の研究活動が行われます。（研究会代表は杉藤重信氏）

## 【歴史の窓】

## ＜椋山女学園と前畑秀子＞

「前畑ガンバレ！前畑ガンバレ！・・・」

前畑秀子氏が1936年（昭和11年）に開催されたベルリンオリンピックの女子200m平泳ぎで金メダルを獲得した時、実況中継でのNHKアナウンサーの声援です。

前畑秀子氏は1914年（大正3年）に現在の和歌山県橋本市に生まれ、近所の紀ノ川で水泳に親しみ、高等小学校2年生の時に汎太平洋女子オリンピック（1929年（昭和4年））の女子100m平泳ぎで優勝、同じく200mでは準優勝という成績を上げました。この活躍ぶりを聞いた椋山女学園創設者椋山正式（以降「椋山正式」）氏は、当時の椋山女学校への編入学を前畑秀子氏にすすめました。これをきっかけに椋山女学校に編入し、水泳を続けることになりました。

1928年（昭和3年）、現在の山添キャンパスの地に第二高等女学校の室内プールが完成しています。椋山正式氏はこれに遡る1922年（大正10年）にアメリカへ教育視察に行ったことから、アメリカ



ベルリンオリンピック金メダル賞状（複製）

の進んだ社会情勢や教育を学び、帰国後は立て続けに校舎の整備と教育内容の充実に力を注いでいきます。

広大な山添キャンパスを取得し、アメリカのカレッジを思わせるような校舎を建設し、教育の一環としてスポーツ活動を積極的に奨励していきます。室内プールの完成もその一つであり、前畑秀子氏の編入学もこうした流れの中にあったといえます。

その後の前畑秀子氏は1932年（昭和7年）に開催されたロサンゼルスオリンピックの女子200m平泳ぎで銀メダルを獲得した後、椋山女子専門学校に進学し、冒頭に述べたベルリンオリンピックへの出場となりました。

1937年（昭和12年）に結婚し、兵藤姓となりますが、早くに夫に先立たれた後、椋山女学園の職員として勤務するかたわら、水泳では後進の育成につとめ、1995年（平成7年）に80歳で逝去しました。

椋山歴史文化館には前畑秀子氏に関する数多くの資料が残されており、歴史展示室に展示されています。



自筆サイン

\*\*\*\*\*

## 【寄贈品紹介】

## ＜平成22年度 寄贈品＞

湯呑み（卒業式用／学園章入り）、裁縫道具箱（卒業記念品）、学園訓、戦時奉公隊腕章、戦時奉公隊学園章、バッジ類6点、バックル、写真（昭和20年山添校舎）、体錬会次第（昭和18年）、習字（昭和21年）、名のお手本、創立記念体育大会次第、授業料領収書（昭和8年）、十三徳目実践反省事項

（以上 杉村昭子さん寄贈）

制服（夏用・冬用／中・高校／現行）、カーディガン（中・高校／現行）

（以上 香田有里さん寄贈）

制服（長袖ブラウス／ピンタック入り）

（以上 井上緋蛾子さん寄贈）

写真（昭和20年学徒動員姿）、新聞スクラップ（H6.6.6中日／熱田空襲）

（以上 大宮久子さん寄贈）

騒音発生装置、（床）摩擦係数計測装置、ピリング（毛玉）発生装置、布の変形特性計測装置、三極傾斜装置、膝部変形に伴う布の変形計測装置、球面変形を与える装置、加圧式通水装置、水圧調整器、温度センサー替装置、繊維組織通水性測定装置、圧力検出装置、平行光線発生源装置、布の異方性測定装置、綿花類標本スタンド（椋山女専附属高備品、昭和12年製）、羊毛標本スタンド、各国羊毛比較試験見本（尾西毛織工業組合 昭和12年製）、織物標本

（以上 中山 晃さん寄贈）



湯呑み（椋山高等女学校卒業記念品／昭和23年）



十三徳目実践反省事項



授業料領収書

**椋山女学園大学生活科学部**  
**生活環境デザイン学科**  
**平成22年度優秀卒業研究・学生作品展**

開催期間：平成23年3月11日(金)～平成23年9月18日(日)  
 会場：椋山歴史文化館文化展示室(大学図書館4階)  
 開館日：水曜・金曜 10:00～16:00

### 【第5回企画展】

＜椋山女学園大学 生活環境デザイン学科

平成22年度優秀卒業研究・学生作品展開催中＞

平成23年3月11日(金)から平成23年9月18日(日)の会期で椋山女学園大学生活科学部生活環境デザイン学科学生作品展を開催しています。

在学生が実際に講義において作り上げた23点の作品を展示しており、ドレスや模型、ランプなどバラエティーに富んだ椋山生らしい個性的な作品が並んでいます。いずれも優秀な作品であり、中には関係団体主催の展示会に出展されたものや2010年度「卒業展」の優秀賞や特別賞を受賞したのも含まれています。

この機会に皆様お誘い合わせの上、学生たちの感性の溢れる作品を是非ご鑑賞ください。



\*\*\*\*\*

### ＜椋山歴史検定をはじめます＞

平成23年5月から椋山女学園の歴史をテーマにした「椋山歴史検定」をはじめます。質問用紙を片手に歴史文化館をゆっくりと鑑賞しながら、椋山女学園の歴史をより身近に感じてみませんか？賞品も用意しています。ご希望の方はご来館の際、受付までお申し出下さい。

\*\*\*\*\*

### ＜椋山歴史文化館 開館日変更のお知らせ＞

平成23年4月より開館日を変更しました。

開館日は水曜日及び金曜日の10:00～16:00です。

\*\*\*\*\*

### ＜『あなたの、わたしの「人間になろう」作品展』作品募集のお知らせ＞

平成23年9月より歴史文化館文化展示室において『あなたの、わたしの「人間になろう」作品展』を企画しています。「今、あなたにとっての「人間になろう」とは何ですか」という問いかけのもと、幼稚園から大学院までの椋山女学園に在籍するすべての在校生を対象に、本学教育理念「人間になろう」を自由に表現する作品展です。

この作品展が在校生ひとりひとりに「人間になろう」を考える機会となり、各校の枠を越えた交流の場となることが期待されます。『あなたの、わたしの「人間になろう」作品展』は今後もできるだけ定期的に展開していきます。それは在校生が自身の成長の証を残していくことにもなり、同時に学園教育の足跡にも繋がるものになればと考えています。

### 編集後記

椋山歴史文化館はオープン3年目を迎えて、いよいよ本格的な事業を行うための体制づくりを目指します。

そのひとつが歴史文化館ニュースを通じた情報の発信であり、ホームページとの連携に絡めながら、皆様のお手元に行き渡るよう配布手段を工夫し、より良い方法を考えていきたいと思っております。

歴史文化館ニュース 第5号

発行日 2011(平成23年)5月9日

編集・発行 椋山歴史文化館

名古屋市千種区星が丘元町17番3号

TEL 052(781)1186(代)

052(781)4590(直)

編集担当者 椋山美恵子 村瀬輝恭 大浦詔子 河路峰雄

